ハローワークの精神科医 Dr.三好はミタ!!

～窓口相談から職場訪問まで東奔西走する精神科医が就労の実際を語る～
第１回　ハロー、ハローワーク！

みなさん、はじめまして！全国で唯一、ハローワークで精神障害者雇用の窓口対応や企業訪問をしてきた精神科医、Dr.三好です。「おおっ！！それは貴重なDrだ！さぞ、立派な先生なのでは？」と思ったあなた。ざ～んねん。病気ばっかりのしくじりだし、一言で言うなれば、人生の織りなす、不思議なご縁の賜物でしかないのだ。

リウマチ発症

さて、今を去ること約20年前のこと、リウマチを発症しあっという間に身体障害者になり松葉杖歩行になった私は、復職なんて程遠く、めっきり諦めモードになってたものの千里の道も一歩からでリハビリに通ったりして、ボチボチとようやく医局の紹介でバリアフリーで働ける病院にようやく就職したものの、２年でリウマチが悪化しちゃい辞職。父の押す車椅子でハローワーク神戸に失業保険を貰いに行ってたところ、その昔、患者さんの障害者雇用でお世話になった就労の神様と異名のあるハローワークの大ベテランPSW（精神保健福祉士）のＳさんにお声をかけていただいたのだ！

神様の救い

「先生、ひまにしとるんやったら、無理ない範囲でうちに来て手伝ってくれませんか？」と長野なまりで声をかけていただいたことは一生忘れませんよ(涙)それから私の精神障害者雇用の現場でのお仕事がぼちぼちと始まった。Ｓさんは私の体調に合わせて最初は職員の対応等の相談から徐々に直接面談、企業訪問へとランクアップしてくれた。さすが、神様。最初は何よりこんな私でも働けること、役に立てることが一番嬉しかった。

もちろん医者の給料には遠いけど、そんなことはどうでも良くないけど良いと思った。それに医療業界しか知らない私には他の業界が新鮮で周囲の職員も優しくて、きっと障害は違うけど患者さんたちも大きな不安や劣等感を抱えながら勇気を振り絞って会社に行って、受け容れられるってとっても大きなことなんだなとしみじみ感じた。

ハローワークの現場をミタ！

さてさて、そこで私はハローワークの現場をミタ！のだ！何てったって医者なんて医療業界しか知らない世間知らず。それに百聞は一見にしかず！働きたいと勇気を振り絞ってくる当事者さん、対応する職員、ハローワークで唯一精神障害者の専門家であるPSW、精神障害に関する知識はなしに等しい企業と共に、人生の大きな節目である就職支援に直接関われるなんて精神科医冥利につきるよ。リウマチさん、クビにしてくれた病院長、車椅子だった私の送迎をしてくれた今は亡き父よ、ありがとう!!

とは言え、今のように就労支援事業所が乱立してない時代。使える施策、資源も限られた中、大きく時代が変わらないといけない、変えないといけないとひしひしと感じていた。その思いは実は資源が増えた今も同じかそれ以上なんだな。

産業医資格取得

実は就労支援するなかで企業側から産業医的な助言を求められることも多くなり、産業医資格も取得し、一般企業と福祉法人で産業医として働くようにもなった。自分も身体障害者で医療、支援機関、企業の3つの立場で働けることは精神障害者を多面的にサポートするのにとっても役立っている。

じゃあ、精神障害者を雇用する上での一番大事なことって何？と見えないたくさんの企業側の読者さん。よくぞ、聞いてくれました！そう、だっ

てこの20年でようやく精神障害が雇用義務化されたんだよ。はっきり言って遅すぎるけど、当たり前のことが当たり前になっただけ。そう、いつも子供や高齢者、障害者、動物、植物、地球さんなど声無き弱いところにその社会のひずみがもろに現れる。だから、社会全体の問題の縮図が障害者の就労支援で現れるのだ。私の就労支援のキーワードは「こころ」「ワンネス」「個別性（多様性）」「成長」の４つだけど、これって社会のキーワードでもあると思う。

こころが大事、リハビリも大事

さてさて、精神科医って「こころ」を診る仕事。私は講演会をするときに決まって、最初に言ってるせりふは「講演内容は、一言で言えば心が大事って話です。」だ。がんや脳卒中、心疾患、糖尿病に精神疾患が加わって、厚生労働省の5大疾患に指定されたのが2011年。こころの時代と言われるようになったけど、本当に心を大事にするって、出来てないってずっと思ってる。自分も他者も。それに私が大事にしてるのは、本音。腹の奥底の自分でも気付いてないかもしれない気持ち。たとえ、体や脳機能に多少不具合があってもこころが健康だとハッピーに感じることが出来る。

こころの健康の回復には、医療も大事だけど、リハビリテーションも同じかそれ以上に大事だ。身体障害者になってリハビリの重要性はどの障害も同じだと思うようになった。

骨折したらまずは安静か手術（治療）して無理なく少しずつ出来るリハビリをしていく。ある程度骨が固まってきたら積極的なリハビリになり、回復したら維持のリハビリになる。就労って実は積極～維持期のリハビリの柱になりうるもの。就労の時期を早まってしまえば固まりかけの骨が再骨折してしまう危険性もある。でも、良いリハビリの先生（支援者たち）と周囲の理解とサポートで回復は促される。

平和と幸福に向かって

障がい者は人をやさしくするために神様がつくられたという概念があるけど、器の大きな立派な魂たちに敬意を払いつつ、接する私たちが理解してサポートすることで彼らの重荷を減らし、障害者も、実は私たちも一緒に平和と幸福に向かって成長していくということを伝えていけたらと思う。

今、時代の大きな転換期。皆と一緒に時代を変えたい。ハローワークには、様々な人生を抱えて人が来る。良い出会いになりますように。

精神科医

三　好　　彩

神戸大学医学部精神科に入局し精神科医として研鑽中に関節リウマチを発症。
療養を契機にハローワークで精神障がい者就労支援に携わるようになる。
現在、神戸市精神保健福祉センターの精神科嘱託医。
兵庫障害者職業センターのアドバイザー、産業医としても活躍。

お知らせ
昨年９月14日、兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）での講演会「ハローワークの精神科医、Dr.三好はミタ！」は兵庫県ホームページにある「ひょうごチャンネル」に動画としてアップしています。約12分のダイジェストバージョンです。http://youtu.be/FI8E8ZRGAKo　または、http://hyogoch.jp/　または兵庫県のホームページのトップページから「おすすめコンテンツ」または「広報・メディア」の「ひょうごチャンネル」のバナーをクリックして下さい。